

## 2020 年度中間報告記者会見を実施



JICA ベトナム事務所清水所長による講演



JICA ベトナム事務所では、JICA 事業の理解促進とベトナムメディアとの関係強化を目的とし、例年 1～2 回の割合で記者会見を行っています。10 月 6 日に実施した記者会見では、8 社のベトナムメディアが参加しました。当日は、JICA ベトナム事務所清水所長より、2020 年度上半期の事業実績およびベトナム政府の新型コロナ対策を踏まえ、保健医療と公共投資（主にインフラ開発）の 2 つに重点を置いた発表がありました。（以下「JICA ベトナム事務所 2020 年度中間報告記者会見」参照）

### JICA ベトナム事務所 2020 年度中間報告記者会見より～清水所長からの発表～

2020 年上半期は、新型コロナウイルス感染症という未曾有の緊急事態発生により、世界経済が大きく落ち込みました。ベトナムも、2020 年の成長率目標値を当初の 6.8% から下方修正を余儀なくされていますが、感染拡大防止を徹底してウイルスを効果的に抑え込み、早期に経済を再開させたことは国際社会からも評価されています。

#### 【巻頭】

- ・ 2020 年度中間報告記者会見を実施

#### 【成長と競争力強化】

- ・ JICA が出資する 信託基金 “LEAP” を通じた支援（海外投融資）：ベトナム最大級の太陽光発電所への融資
- ・ カイメップ・チーバイ港の更なる活性化のためのパネルディカッション

#### 目次

#### 【その他】

- |   |  |   |
|---|--|---|
| 1 | ・ 「SDGs と持続可能なビジネス戦略」オンラインセミナーを実施                          | 4 |
| 3 | ・ Voice of Volunteer OB&OG 便り                              | 5 |
| 4 | JICA カンボジア事務所 岩崎弥生（平成 8 年度 2 次隊 日本語教師 国家人文社会科学研究所日本研究センター） |   |

アジア開発銀行（ADB）は2020年のアジア経済見通し（ASIAN DEVELOPMENT OUTLOOK 2020 UPDATE, 2020年9月15日付）では、多くの国でマイナス成長を予想する中、ベトナムの経済成長率をプラス1.8%と見込んでいます。8月にはEVFTAの発効、9月には日本を含む一部の国との定期航空便の再開決定と厳しい状況の中にも経済活動の再開に向けて動き始めていることに敬意を表したいと思います。

なお、日本のODAに関するところでは、7月におよそ3年ぶりとなる円借款事業、「海上保安能力強化事業」の契約を締結しました。JICAとしてもこれを契機に、ODAによるベトナムの社会経済活動の更なる進展のお手伝いをしたいと思います。

以上から、今回の記者会見ではベトナム政府の「感染拡大防止と経済成長の両立」の新型コロナウイルス対策の方針に沿って、JICAの保健医療と公共投資分野への協力を重点的に紹介いたします。

## 1. 保健医療

JICAは長年保健医療分野を支援しています。当分野にはこれまでに累計およそ2000人の専門家、140人のボランティアの派遣、5,300人の研修員の受け入れを実施、資金協力と技術協力を合わせた支援額はおよそ774億円に上ります。なかでも「中核病院（バックマイ、チョーライ）を軸とした保健システムの強化」や「感染症対策」は、協力の重要な柱として支援を続けている分野です。2003年のSARS流行時におけるバックマイ病院の経験や、国立衛生疫学研究所（NIHE）、ホーチミン・パスツール研究所（PIHCMC）等を対象とした15年にわたる感染症研究及び検査体制強化の支援は、今回のベトナムの新型コロナウイルス感染症対策の成功に寄与しました。また、JICAは2020年2月以降、協力を実施中のカウンターパート機関を通じてベトナムの緊急ニーズを迅速に把握し、NIHEやPIHCMCに対する検査試薬や、チョーライ病院に対する「院内感染対策マニュアル」の作成、ECMO等の医療資機材等、総額1.7億円の支援を実施しました。

そのほかにも、ワクチン・生物製剤研究・製造センター（POLYVAC）への支援を通じた麻疹・風疹ワクチンの自国生産や母子手帳のベトナム全国普及、健康保険制度強化などを通じた基礎的保健サービスの向上等、全ての人々が適切な保健医療サービスを、支払い可能な費用で受けられる、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の観点からの協力を実施して

きました。これらベトナムにおける保健医療分野への協力は、JICAが行ってきた他の国への同じ分野への協力と比較しても内容・規模の両面において最も大きな部類に入ります。

今回の新型コロナウイルスの蔓延にともない、保健医療、感染症の分野に対する協力が一層注目されることとなりました。これを受け、JICAでは、同分野への協力等の強化を進めていきたいと考えております。ここベトナムにおいても、これまでの協力によって蓄積されたアセットを活用し、これをより一層強化、拡大、深化させる方向で引き続き保健医療への協力を進めて行きます。

## 2. 公共投資

JICAは社会隔離中も公共工事を停滞させないというベトナム政府の方針の下、新型コロナウイルスの影響を受けながらもODA事業の工事を継続し、ベトナム人技術者の雇用を維持し、ベトナム政府の景気回復に貢献しています。例えば、実施中の「ホーチミン市都市鉄道建設事業（ベンタイン-スオイティエン間（1号線））」は、現在約2000人が工事に携わっています。大型案件は大規模な雇用を創出します。ここ数年は新規円借款事業の締結、年度の貸出執行率ともに極めて低調な傾向にありましたが、公共投資の早期実現は経済回復の起爆剤ともなりえます。これから益々発展が期待されるベトナムは様々な分野での基礎インフラがまだ不足していると見られています。新型コロナウイルス感染症等によるサプライチェーンの見直しで、ベトナムは新たなサプライチェーン供給先として期待が高まる一方で、他国も制度見直しやインフラ投資を加速しており、国際競争力を高めようとして取り組んでいます。外国からの投資を誘致するには、質の高い基礎インフラの整備が重要です。私共も円借款、ODAを通じたベトナム経済の発展に引き続き寄与して行きたいと思いません。

なお、私共が実施する円借款のインフラプロジェクトは上半期のコロナ禍でも事業は順調に進捗し、この10月には、ハノイ市環状3号線（マイジック-タンロン南間）が開通するほか、ホーチミン市都市鉄道建設事業（ベンタイン-スオイティエン間（1号線））は最初の車両の到着が予定されています。「ハノイ市エンサ下水道整備事業」の最大パッケージである下水処理場の工事も本格化しています。

なお、社会的に脆弱なコミュニティでは新型コロナウイルスの影響はより深刻であり、JICA は都市部だけでなく、地方のインフラ開発を通じた格差是正にも協力しています。「第二期国道・省道橋梁改修事業」を通じてベトナム全土の地方の橋梁 98 か所の改修・架け替えを実施、7月に完工しました。橋の一つ一つは小規模ながら、地域のモビリティを高め、人々の生活を大きく改善しました。これら公共事業はベトナム政府の社会経済開発計画の優先課題とも合致しており、JICA は調印済案件の着実な実施のほか、さらに開発効果の高い新しい事業の実施に向けてベトナム政府と協力してゆく考えです。

今期は保健医療、公共投資を重点的に説明しましたが、そのほかでも JICA はベトナムへの外国からの投資、経済発展に向け、農業、人材育成、経済、ガバナンス、気候変動対策など、幅広い分野へ支援しています。例えば、競争法分野においては、公正取引委員会から長期専門家を派遣し、2019年7月に施

行された改正競争法の的確かつ積極的な運用を通じた公正な競争環境の確保に取り組んでいます。また、外国投資呼び込みの観点では、国家証券委員会（SSC）、ハノイ証券取引所（HNX）、ホーチミン証券取引所（HOSE）と連携し、ベトナム株式市場の公正性・透明性改善に向けた能力強化を行っており、今後は国際財務報告基準（IFRS）導入に向けた技術協力を通じて、企業財務会計にかかる透明性の高い情報開示促進を目指していく方針です。今後も JICA はベトナム政府と綿密に連携しながらハード面・ソフト面の両輪でベトナムの発展を支援していきます。

引き続き私共の活動についてご支援下さいますようお願い申し上げます。

2020年10月6日  
JICA ベトナム事務所長  
清水 暁

成長と競争力強化

## JICA が出資する 信託基金“LEAP”を通じた支援（海外投融資） ベトナム最大級の太陽光発電所への融資



発電所全景@フーイエン省

10月9日、タイにて、JICA の出資する「アジアインフラパートナーシップ信託基金（“Leading Asia’s Private Infrastructure Fund”：LEAP）」を活用した、アジア開発銀行（ADB）によるベトナムにおける太陽光発電事業への融資契約の調印が行われました。うち9.3百万ドルはLEAPによる融資です。

本事業は、ベトナム中部のフーイエン省における257MWの太陽光発電事業に対して長期融資を供与するもので、太陽光発電事業として東南アジアにおいて最大級の規模です。スポンサーとしてタイの独立発電事業者大手の B.Grimm Power Public Company

Limited 及びベトナムの Truong Thanh Viet Nam Group Joint Stock Company が参画しています。

なお、本事業は、ベトナムにおいても最大級の太陽光発電事業であり、石炭やディーゼル燃料への依存を減らし、よりクリーンな国内エネルギー資源の活用を促進するものです。また、ベトナムにおいて国際的な認証スキーム（Climate Bonds Standard and Certification Scheme）を用いて認証された初のグリーンローンです。事業地周辺のクアンガイ省やニャチャン市といった観光地の電力需要の増大に対応するとともに、年間12万3000トンの二酸化炭素排出を抑制することが期待されています。

JICA は今後も各国・国際機関と協働し、「質の高いインフラ投資」を推進するとともに、「持続可能な開発目標（SDGs）」も踏まえた開発途上国・地域の経済社会開発に貢献していきます。



# カimeップ・チーバイ港の更なる活性化 のためのパネルディスカッション



パネルディスカッションの様子（JICA ベトナム事務所ホーチミン出張所 増田首席）

9月4日、バリアブントウ省のフーミー3工業団地にて、「カimeップ・チーバイ港の更なる活性化のためのパネルディスカッション」が行われました。

同港は円借款「カimeップ・チーバイ国際港開発事業」によりバリアブントウ省に整備され、2014年から運用が開始されました。今回のパネルディスカッションでは、ターミナルの混雑や周辺道路の渋滞が課題となっているホーチミン市近郊のカットライ港から、大型船の発着が可能な南部地域唯一の大深水港であるカimeップ・チーバイ港への貨物の誘致のためにどのような取り組みが必要かについて、バリアブントウ省、港湾オペレーターおよび JICA、JETRO、日系企業等が集まって議論が行われました。

日系企業各社からは今後の輸出入荷物の拡大計画

について表明があり、カimeップ・チーバイ港のアジア航路拡大について強い要望が寄せられました。それに対し、港湾オペレーターからは、輸出入貨物の拡大は歓迎すべき状況であり、より詳細な情報収集のための継続協議の提案がありました。バリアブントウ省からは地域間接続道路の整備や物流機能の改善等、周辺インフラ改善や税関手続きの円滑化について共有があり、カimeップ・チーバイ港の更なる活性化は同省の社会経済の発展に不可欠である旨が強調されました。

本パネルディスカッションは、9月13日に国営テレビ局 VTV-9 にて 20分に渡って放映された他、同テレビ局ホームページ\*でも公開されるなど、カimeップ・チーバイ港に対する期待の高さを裏付けるものとなりました。今後も関係者が知恵を絞りと、カimeップ・チーバイ港を更に活性化させることで、同港がバリアブントウ省ひいてはベトナム全体の経済発展の重要な役割を担うことが期待されます。

\* <https://vtv.vn/video/viet-nam-logistics-tang-tan-suat-tuyen-noi-a-cap-cang-cai-mep-thi-vai-459515.htm>



## その他「SDGs と持続可能なビジネス戦略」オンラインセミナーを実施

9月29日、JICA ベトナム事務所において、ベトナム日本商工会議所（JCCI）社会経済インフラ委員会での活動の一環として、「SDGs\*と持続可能なビジネス戦略」オンラインセミナーが行われました。同セミナーにはベトナムに拠点のある日系企業から約60名が参加しました。

本セミナーでは2つの講義が行われました。まず、一般社団法人海外コンサルタント協会（ECFA）サステナブル推進チーム長の菊池氏（日本工営）から、SDGs をどのようにビジネスで活用していくのか、CSR（企業の社会的責任）やCSV（共通価値の創造）、ESG（環境・社会・ガバナンス）とは何が異なり、どう関連付けられているのか等が説明されました。次に、JICA ベトナム事務所の石丸所員から、SDGs に向けた JICA の取り組みやベトナム政府の

National Action Plan（通称 Vietnam-SDGs）が紹介されました。

本セミナーを通して、JICA と民間企業のパートナーシップ事業も含む様々な事例が紹介され、CSR を慈善活動と捉えるのではなく、事業の収益と社会課題の解決は両立できること、そして世界の投資潮流もそれを後押ししているということが共有されました。

今後も、JICA ベトナム事務所は SDGs 達成に向け、ベトナムの開発政策に沿った協力や新しいビジネス展開を支援していきます。

\* SDGs : 2015年9月の国連サミットで採択された17のゴール・169のターゲットで構成される世界全体の目標である持続可能な開発目標。



# Voice of Volunteer OB・OG 便り

## 思い出の中のハノイ

JICA カンボジア事務所 企画調査員（ボランティア事業） 岩崎弥生  
（平成8年度2次隊・日本語教師 国家人文社会科学研究所日本研究センター）



ハノイの街角

1990年代後半、私が2年間日本語を教えた国家人文社会科学研究所の日本語教育の対象者たちは、その前日までロシア研究等をしていたという年配の研究者たちだった。ベトナム戦争時代、戦火のなか北朝鮮へ移動してまずは朝鮮語を学び、朝鮮で高等教育を受けたなどという彼らは、ずっと若い協力隊員のことを、それでも“教師”ということで、随分丁寧な扱ってくれた。授業が始まる前には50代の“生徒”が、必ず熱いお茶を入れてくださった。日本語を学ぶベトナム国家大学の大学生が、当時JICAベトナム事務所が16Fに入っていたデーウーホテルのエスカレーターに、足がすくんで乗れないといった、そんな時代の話である。教室では日本語自体もだが、自動販売機等の新文明の話をする后感心され、日本製の緑茶や甘味を出すと文化の共通点を喜ばれた。ひょっとすると日本語学習に大した関心の無い、国の指示で臨む研究者たちに対して、「日本語は難しいけれど授業は何だか楽しい」と感じてもらえるよう、手を替え品を替え、興味を引きそうなものを示しながら、私自身もベトナムとベトナム人への関心の幅を広げ続けた。授業以外では、日本語教師のJICAボランティアと若いベトナム人教師が勉強会を開くなどという場面も珍しくなかったようだ。大学

生たちは日本にあこがれ、「東京ラブストーリー」のビデオ鑑賞に熱狂していた。



先生の日で教室で、花をもらう

居住場所は、ドラゴンホテルという、ハノイ初（関係者談）の民間ホテル創始者一家が自宅として使っていた、Cat Linh 通りにある小ホテルの一室だった。生活の場で使用している家財の大半が骨董品と呼べるようなもので、この国の歴史を思うと感動した。2年住んだ最後の日に、一家の要である御婆さんが私の幸福を祈ってお土産に渡してくれたのは、彼女が最新に入手した見栄えの良いキラめく自慢の陶器であった。



19歳の花嫁（家に招待してくれた友人が嫁ぐ日に）

余暇には料理教室通いを熱心に行った。料理に関心があるというよりは、ベトナム語の勉強と友人作りを目的とした。当初の目論見は外れ、料理を通しての語学学習は捗らなかったが、友人は出来た。彼女の田舎の家に招かれて泊ったことは、良い思い出である。農村の集落には集中トイレが一か所にしかなかったもので、夜には友人が火を灯してそこまで案内してくれた。単純な作りのトイレは、清潔だった。しかし一泊二日の間で、トイレには一度しか行かなかったことに、我がことながら人間の身体の不思議を感じた。明日帰るといって友人の母親から、「日が悪いから移動は避けるように」と何度も引き留められた。帰りの汽車賃は、駅まで見送ってくれた友人の父親が払ってくれた。ガランとした車両に乗り込むと見知らぬ子どもが隣に座ってきて、私にもたれて、ハノイまで眠った。

1990年代後半に隊員生活を送ったハノイの思い出を、写真から辿り思い出そうとしたのだが、ずいぶん撮ったはずの写真は散り散りになってしまったようで、見つからない。しかし思い出は、次から次へ、写真に頼らずとも溢れ出てくる。その後、2009～2012年にボランティア調整員として初めてベトナム南部で働き、その際、研究所職員たちの一部と再会した。そして驚いた。1990年代のベトナムは私にとって、ハノイ市の思い出に限られ、濃縮されている。



テトの公園

JICAベトナム事務所では、本月報を通じて皆様との情報共有を目指しています。ご意見、ご要望は、[vt\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:vt_oso_rep@jica.go.jp)までお送り下さい。

Website <https://www.jica.go.jp/vietnam/index.html> (日・越・英)

Facebook <https://www.facebook.com/jicavietnam> (越)

発行：JICAベトナム事務所 広報班